

おかだ耕一

後援会会報
No.13
2002.1.10

発行/おかだ耕一後援会

豊田市宝来町4-758-141

TEL・FAX/88-9194 (岡田自宅)

代表世話人/久保 仁勇



謹んで新年のお祝いを申し上げます

昨年は岡田耕一の活動に対しまして、格別のご理解、ご支援いただきありがとうございました。心から御礼申し上げます。

平成13年は豊田市制50周年という節目の年でありながら祝賀ムードの全く感じられない1年でした。51億円の公的資金を投入して問題を先送りしただけの中心市街地活性化(駅西再開発ビル)問題、35億円とも言われたスタジアム建設費の増額請求問題、地域医療センター職員医療費負担問題等、様々な問題に対し取り組んでまいりました。そして、それぞれ一定の成果を収められたと感じています。

今年も豊田市ではこれから議論すべき様々な問題を抱えています。50億円から100億円もの建設費を想定している体験型交通安全教育施設建設問題や建設場所の再検討をすべき総合体育館建設問題、また新清掃工場建設問題等、様々な取組みも必要になります。更には、月額診療費を最高でも2,000円しか支払わない市職員の9市健康保険組合問題にも取り組まなければならないと思っています。

こうした活動を継続できますのも地元の皆様、後援会の皆様はじめ、市政に対して問題意識を持っておられる市民の方々のご理解があって初めて成果が上げられます。利益誘導団体、既成組織や政党の枠にとらわれることなく、市民の皆様が本当に求める市政実現のために働かせていただく市民派議員の岡田耕一に今年も昨年同様、温かいご支援賜りますよう心からお願いすると共に今年1年も皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

なお、公職選挙法第147条の2で「公職の候補者は当該選挙区内にある者に対し、答礼のための自筆によるものを除き、年賀状、寒中見舞状、暑中見舞状その他これらに類するあいさつ状(電報その他これに類するものを含む)を出してはならない」となっているため、新年のご挨拶は失礼致しておりますのでご了承ください。

豊田市議会議員 岡田 耕一

旧年中は岡田耕一市議ならびに後援会に対しまして、格別のご理解、ご支援を賜り心から御礼申し上げます。

岡田耕一君も議席を得て早2年、幸か不幸か現状の豊田市においては活動の場も非常に多いようです。

昨年は岡田市議も常々問題提起されてきたスタジアムが、完成間際になり35億円といわれる建設費の増額請求問題が発生しました。岡田市議らが声を大にして異を唱え、活動された結果、増額も5億円まで軽減されたことは大いに評価できるのではないのでしょうか。

加茂病院の新築移転問題でも特別委員会に所属し、積極的に提言等を行っている様子で頼もしく思っています。移転先も地元だからということではなく、岡田市議には是は是とし、非は非として正論を通し、主張し続けて欲しいと思っています。

また、昨年末には、岡田市議らが以前から問題提起されていた地域医療センターの職員医療費負担問題の改善に向けた方向性が出されたようです。こうした働きを見ますと、とても1年生議員とは思えない活躍をされています。

今年も昨年同様に岡田市議が活躍できるよう陰に日なたに支えていきたいと思いますので「市民第一」「市民本位の市政を目指す」市民派議員の岡田耕一議員に温かいご支援賜りますよう心からお願いし、新年のご挨拶と致します。



おかだ耕一 後援会 代表世話人 久保 仁勇

12月議会で可決された主な事業

●平成13年度豊田市一般会計補正予算

すこやか住宅リフォーム助成費 41,917千円

介護保険認定者のうち、在宅で介護を受けている人で、対象者本人、及び対象者の属する世帯の世帯員が、今までに市からの住宅助成を受けたことがない世帯に対して手すりの取り付けや段差の解消工事等をする場合に40万円を上限額に助成する

総合駅エリア施設整備費 102,950千円

中心市街地緊急活性化事業の1つとして豊田市駅西口、Pデッキ中2階北側と緑陰歩道を結ぶエスカレーターを設置

●豊田市営東山住宅建設工事

(第3期工事・第2工区) 457,800千円

鉄筋コンクリート造6階建て

2DK/18戸 3DK/36戸

完成予定日/平成15年3月21日



無料法律相談のご案内

日時 / 1月12日(土)

2月 9日(土)

時間 / いずれも午後1時30分～3時

場所 / 豊田産業文化センター4階にて

問合せ / 豊田市議会議員 おかだ 耕一

TEL 88-9194

弁護士に無料で相談できます。予約制ではありませんので、しばらくお待ちいただくことがあります。ご了承下さい。あわせて、行政相談も実施しておりますのでお気軽にお越し下さい。

豊田市議会 12月定例会 会期 /12月7日～12月19日

26議案 3請願等について審議 本会議では全議案可決、3請願不採択

おかだ耕一の主な採決態度

- 「豊田市の議員及び長の選挙における自動車の使用及びポスターの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例」に反対
長引く不況の影響による消費の低迷、会社の倒産やリストラなど雇用不安のある現状や職員の期末手当支給額の引下げなどを考えると公職選挙法施行令の一部改正に準じているからと言っても選挙に立候補する候補者だけが優遇されることは良くない。
- 「平成13年度豊田市一般会計補正予算」に反対
エスカレーター設置にあたり身障協会、買い物客、地元商店等の市民からの要望等があったわけではない。車椅子の方や目の不自由な方への新たな対応はしない。エスカレーター設置予定場所の現在の通行量さえ調査していない。完成後の想定通行量は1日1,700人で1時間あたり2人しかいない。本来すべき国県へ補助金申請さえていない。こんなエスカレーター設置に1億円かけるよりまだやるべきことはあるはず。
- 「医療・介護・福祉の充実と雇用保障を求める請願書」に賛成(思政クラブ、公明党などが反対)
- 「放課後児童健全育成事業の充実を求める請願書」に賛成(思政クラブ、公明党などが反対)
- 「公団賃貸住宅を公共住宅として存続させることを求める請願書」に反対(フレッシュ21、共産党が賛成)
誰でも安心して生活できる住宅政策は必要と考えるが、公団存続が自己目的化してしまう可能性があり、必ずしも都市基盤整備公団を存続させる必要はないと考える。





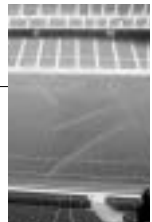
●人通りのほとんどないエスカレーター設置予定場所

1. 豊田スタジアムのイベントについて

一貫してスタジアム建設に反対してきた私も完成したという現実を受け止め、あとはいかに市民にとって有益な施設とするか、管理委託費の一般会計からの補てんをいかに少なくするかという観点でこの施設を監視しようと思っている。

1). スタジアム活用の考え方について

〈答弁は近藤中央公園推進室長〉

- Q1 このスタジアムは、市の施設としては矛盾点を抱えている。興行目的でJリーグの試合やコンサート等を誘致し、観戦することを優先すれば芝の養生も考え、市民利用は大幅に制限される。反対に市民利用を優先させれば、使用料収入は見込めず市からの持ち出し額は、大幅に増える。昨年6月定例会では、「プロ及び全国的なイベントは約3割、市民利用が7割」と答弁。市民利用という定義もいろいろ考えられる。サッカーの練習レベルの利用も、朝のラジオ体操や交通安全決起大会利用も、また、ピッチに入らないように念を押されて開催されたレク・スポーツフェスティバルも市民利用ということになる。では、本来市民が求める市民利用とは何か。私には、収益性と公共性を両立させることは不可能であり、今後どういう運営をされていくことが市民にとって最善なのか答えを出せない。そこで市が考えるスタジアム利用の考え方、施設利用の優先順位を問う。
 - A1 市民利用7割、興行等を3割の基本的な利用割合を遵守し、活用したい。優先順位は、条例に定められた指定団体(名古屋グランパエイト)の利用を優先し、それ以外は調整する。
- Q2 スタジアム有効利用の観点から駐車場問題、交通アクセスについても問う。私に寄せられている情報によれば、市制50周年記念事業等の市が万全の態勢を取ったイベントでは大きな混乱はなかったが、Jリーグ等の主催イベントでは、近隣の商業施設の駐車場が試合観戦者に長時間占拠され、大変な営業妨害となったという苦情は市にも届いているはず。市当局が、スタジアム建設計画を発表して以来、自信をもって提示していたシャトルバスを主体とした交通アクセス、駐車場問題についての実績評価と反省の具体的な答弁を求める。
- Q3 ロシアチームがキャンプ地としてスタジアムを見学された。キャンプ地に決定すれば長期間市民利用できなくなる。キャンプ地に決定してもフォーメーションや戦術確認のため大半が秘密練習になることが想定される。ロシアサッカー協会からは滞在費負担を要望と報道されたが、私は、何千万円もの滞在費負担をしてまで誘致する必要があるとは考えられない。市は滞在費負担をしてまで誘致を必要と考えるのか。(後日ブラジルは5億円要求と報道される)
 - A2 集客性の高いイベント開催時にスタジアム周辺商業施設の駐車場が満車になることは確認している。11月以降は主催者及び株式会社協働して警備員配置強化、指示看板の掲出等の対策を実施。
 - A3 調査にこられた国からは具体的に提示は受けていない。負担内容が明らかになれば議会とも相談し、検討したい。
- Q4 12年3月定例会では、「額は言えないが、公の施設においても最少の経費で最大の効果を上げる効率的な運営ということを目指す」と答弁された。まさにそのとおりだと思う。だからこそ施設の管理運営を株式会社に委託されたと認識している。そこで完成半年経った今の市が考えるスタジアム管理委託費負担の考え方と一般会計からの持ち出し金額の限度額についての考えを問う。
 - A4 豊田スタジアムは公共施設であり、必要な維持管理の経費は、市が負担する。限度額は、予算の範囲内となる。

2. 豊田スタジアムオープン記念事業について

〈答弁は築瀬教育委員会専門監〉

豊田市と稲武町、東西加茂郡のほとんどの小中学生と教員をあわせて約4万5千人をスタジアムに集め、合唱等を行ったものですが、現場の教員や保護者から多くの問題提起をされ、最後の最後まで改善に改善を重ねた教育的意義があまり感じられない事業だった。

Q1 この事業を計画した際、全学校長から意見を求めたのか。また、その際に反対意見、慎重論は出なかったのか。豊田市分だけで2000万円以上も支出したこの事業。こんなことより教育関連でまだまだやるべきことが他にあるとの声は教育委員会には届いていないのか。

A1 12年9月の校長会役員会で提起、13年2月の校長会議で概要提案。実施後のある小学校のアンケートでは、96%が楽しかったと答えている。「わくわくできた」などの感想が寄せられた。



●紅白戦後半、ガラガラになった観客席

Q2 開会式に間に合わない学校が2校、小学校低学年で紅白戦の前半終了時に帰った学校が88クラス中27クラス、上郷中学校も前半で帰っている。藤岡町に至っては小学校低学年全てを参加させないなど当初の計画とは異なった事業になっている。そもそもこの計画自体に無理はなかったか。どうしてこういう状況になったのか。

A2 安全、児童生徒の発達段階、市民生活への影響を考慮し、計画。参加館前広場での人員確認に手間取り、2校が途中入場となった。途中退席は、低学年の実態や乗車時間を学校が判断。上郷中学校は愛環鉄道の本数が少ない関係で学校と相談し、退席。電車、バス会社と直前まで連絡調整したため、苦情、渋滞もほとんどなかった。計画に無理はなかったと考える。

Q3 この事業は、教育委員会としては成功と言っているようだが、教員の評価、児童の生の声も含め、今後の事業継続の考えについての所見は。

A3 現在のところ、事業継続は考えていない。感動体験については今後も考える。

3. 児童・生徒スポーツ観戦事業について

〈答弁は築瀬教育委員会専門監〉

Q1 当初の計画では、全小学6年生 3,638名、全中学2年生3,728名をJリーグ公式戦に観戦させることだったが、途中で目的を変更して実施した。その理由は何か。当初の目的はどうなったのか。

A1 当初は児童生徒の送迎はPTAを中心とした一斉引率を検討したが、引率者の確保が困難で断念。より安全で確実な保護者引率が検討され、参加募集型の親子ふれあいを目的として追加して実施。

Q2 特に女子の児童・生徒の参加が、少なかった。数値的な実績と今後も継続して実施する考えがあるのかどうか。3月定例会の私の議案質疑の答弁において「お金を出して観戦したいという市民に対して迷惑にならない」と明言されたが、現にジュビロ戦では市民がチケットを買えない状況だった。「一般市民に対しての入場券も十分用意することができるといことで問題はない」という判断が間違ったことになるがどうか。

A2 9月22日の参加実績は、3,542名のうち52.3%の参加で、男子61.3%、女子38.7%の割合。10月13日の参加実績は、3,457人のうち54.4%の参加で、男子62.9%、女子37.1%の割合。この事業によりスポーツへの関心の高まりや積極的な取り組みにつながると期待。参加者からのアンケートでは、概ね好評の意見を頂いた。今後も参加率を高める努力をし、継続的に実施したい。

4. ホセ・カレーラスドリームコンサートについて

〈答弁は近藤中央公園推進室長〉

この事業は株式会社の主催ということで直接的には市と関係ないが、豊田市は資本金の3分の1を出資する筆頭株主という立場として市民は非常に関心を寄せているのであえてこの事業についても質問する。私も当日は見させていただいた。歌自体は非常にすばらしく多くの観客も楽しめたと思うが、多くの問題を感じた。冬場は非常に寒い。音響を考えると屋根が閉められないので雨天対応できない。飛行機や豊田大橋を通過する車のクラクションも聞こえる。入場時カメラチェックさえしない。等々、いろいろ体験した。

また、あれだけのキャパシティがあるにもかかわらず、ガラガラだった観客席を目の当たりにした今回のアーティストはもう2度と来ないでしょう。また、アーティスト仲間による情報交換でクラシック系コンサートは2度と開催できないのではないかと。私自身もGLAY等の人気ロックコンサートはぜひやって欲しいと思うが、クラシック系コンサートは音響や集客も含め、豊田スタジアムではやるべきではなかった。コンサートホールの位置付けを考えると大いに疑問が残る。まさしく、今回の事業は、スタジアムの稼働率を上げることとコンサートが本当にできるかの実験の場になり、ホセ・カレーラスやサラ・ブライトマンには大変失礼だったのではないかと。

Q1 当日の入場者数は約15,000人と聞いているが、収容人員と目標入場者数及び有料入場者数と招待客数の内訳は。

A1 最大集客数を2万人とし、目標入場者数を1万6千人としたと聞いている。内訳については現段階では集計が間に合っていない。(後日、資料を確認すると最大2万5千人となっていた。答弁はウソ???)

Q2 この事業の収支結果と市がこの事業に対して直接的、間接的に財政負担をするのかどうか。するならばその負担額は。

A2 コンサート終了後、間もない現段階では、収支ともに集計されていないと聞いている。市の負担はない。

Q3 入場者、アーティスト、主催者の評価と問題点の把握は。

A3 一定の評価を頂いたと聞いている。主催者としてスタジアムの利活用が広がったことなど一定の成果が認められ、今後も事業展開したいと考えていると聞いている。

2. 加茂病院移転問題について

〈答弁は栗山福祉保健部長〉

市立病院を持たない豊田市は加茂病院を市民病院的病院と位置付け、移転の際には約100億円の財政支援も検討。市民感情からすれば財政支援するのであれば市の考えを最大限尊重し、移転先を決定してくれると信じている。加茂病院の移転は30年、50年先の豊田市と稲武町も含めた東西加茂郡にとって非常に重要な問題であり、どこにあるべきか慎重に検討すべき。決定は厚生連と市の協議になるが、決定に際して比較した検討事項の優先順位は必ずあるはず。市長は、今年中に移転先を決定するとの答弁されたが、どちらの移転先になっても完成は、平成20年以降になる状況なので急いで決定する必要もなく、しっかりじっくり検討すべき。

Q1 豊田市として移転先の決定に対して考慮する優先順位はあるのか。もしあるのなら療養環境を重視するのか、公共交通を重視するのか、道路交通アクセスを重視するのか、市が負担する整備費用を考慮するのか、どの検討項目を重視して決定するのか。

A1 優先順位は現時点では持っていない。特別委員会より出された調査研究結果の提言を慎重に検討し、加茂病院と協議しながら移転先を決定する。

Q2 現在は、加茂病院に公的援助をし、救命救急センター機能(脳卒中や心筋梗塞、頭部損傷等の重篤患者を24時間体制で診療できる医療体制)を整備することを前提に移転計画が進んでいるが、仮にトヨタ

記念病院のような民間総合病院で、救命救急センター的機能の整備構想がでたときに市はその医療機関に対してどのような対応をするのか。また、加茂病院への財政面も含めた支援の考え方に変更はあるのか。

A2 3次救急部門は不採算部門であるため国県が政策的に進める施策である。13年3月には愛知県地域保健医療計画においてこの地域でも救命救急センター機能の整備の必要性が明記された。市としては加茂病院移転の際に救命救急センター機能確保に支援しようと考えている。加茂病院以外の民間医療機関が独自に機能充実を図る目的で3次救急医療の一端を担う意向があるのなら患者にとっての利便や安心は増すが、地域医療資源の有効活用の点や病院経営の面からは課題があると思う。



特別委員会視察報告書

平成13年11月5日から7日の3日間、私が所属する加茂病院移転問題特別委員会の視察に行きまわりました。今回は視察後に提出した報告書の一部に手を加え報告させていただきます。なお、全議員の報告書は豊田市情報公開条例に基づき市政情報コーナーで公開できます。また、私の報告書の全文はE-mailアドレスのある方はメールで、FAXをお持ちの方はFAXで送信させていただきますのでご連絡下さい。私のHPでも見ることができます。

1. 視察を終えて

今回は、公的病院である厚生連佐久総合病院(一般600床+ICU20床)、厚生連高岡病院(一般681床(開放型病床20床))、長浜赤十字病院(584床)を視察させていただいた。いずれの病院も600床の加茂病院とは同規模であり、救命救急センターの指定を受けている病院で大いに参考になった。特に行政(市、町)からの財政支援、救命救急センターの運営状況、交通手段については検討材料として多くの事例を収集できたと思う。強いて言えば厚生連佐久総合病院は地域にこそしか総合病院がないとい

う状況であるので加茂病院とは位置付けが若干違い、厚生連高岡病院、長浜赤十字病院は市内に市立病院があるという状況から財政支援の比較検討が若干にくい状況ではある。それでも、隣接する市立病院がありながら健全運営をし、市からの支援をほとんど受けていないということは特筆すべきことだ。新加茂病院建設、運営に関する財政支援については、あらためてしっかり議論すべきであろう。

2. 移転先についての考察

現在、御幸地区と上野・広川地区の2候補地からの選定という状況になっているが、今回、高岡病院の視察で災害拠点病院の指定の際に鉄道高架が妨げになりヘリポートの設置が難しかったことも厚生連高岡病院ではなく、高岡市民病院が災害拠点病院に指定された要因の1つと聞いた。そうであれば災害拠点病院に指定されヘリポートの設置が義務付けられる新加茂病院は、3面が鉄道、高圧線に妨げられる御幸地区にした場合、大丈夫なのかとても気がかりだ。また、交通アクセスについては、どの病院も鉄道利用

というのがほとんどなかった。非常に多くの方が病院の入り口まで乗り入れる自家用車かバスを利用しているという状況は大いに参考にすべきである。



●工場地帯に隣接する御幸地区



●豊田北高校東側のの上野・広川地区

3. 行政支援のあり方について

現在の厚生労働省、県の医療計画の下では加茂病院に救命救急センター機能をもった施設を完備しても補助金の面で国、県からの支援はまだあてにできない。厚生連加茂病院側が設置を前向きに検討しているのであれば豊田市としては赤字分の一部として年間4~5億円であれば市民合意を得て財政支援はしてもいいのではないかと。

しかし、高額医療機器の購入補助、大規模駐車場の整備費の補助についてはもう少し議論を重ねるべきで、厚生連加茂病院側は有料駐車場等で整備費用(土地購入費等)を償却すべきだと思ふ。厚生連加茂病院側が駐車場整備の費用負担を求めるとすれば、市が土地を購入し、賃貸料を

もらう方が良いのか、費用負担をしてでも厚生連加茂病院側に土地を購入してもらい、固定資産税を徴収したほうが市民にとって良いのかも検討すべきである。それが難しいということであれば現在地の跡地購入と相殺する形での支援にとどめるべきである。

市としては、候補地のどちらが選定されたとしても交通アクセス支援として駅からの10~15分間隔程度の100円バス等の路線バスを整備する必要があると思う。

いずれの支援も他の医療機関に対して経営を圧迫することのないように加茂病院だけを優遇し過ぎることにならないようにしなければならない。

ここが聞きたい！議員？豊田市政？

ここでは、一般的な議員、市議会、また豊田市政に関する質問をQ & Aという形でおかだ耕一市議が答えていきます。

Q 豊田市では今後、多くの事業計画があるようですが、それらの進み具合とこれらの問題に対するおかだ市議の考え方を教えてください。

A 今後、豊田市ではさまざまな取り組み、大規模事業を計画しておりますが、その中でも特に議会で議論になっている保育園の公設民営化、新清掃工場建設問題、体験型交通安全教育施設整備構想を今回取り上げます。

①保育園の公設民営化について

豊田市では、みずほ保育園(瑞穂町2-5)の事業主体を平成15年4月1日から学校法人もしくは社会福祉法人に移管する方向で準備が進められています。そして、まずは14年4月1日からの1年間は保育業務の一部のみを業務委託する予定です。これは平成10年に策定された第3次豊田市行政改革大綱「豊田がんばるプラン」の中で明記された幼稚園、保育園の効果的運営の1つとして「10年間で5園の公設民営化、共用化、統廃合等を目指す」ことに基づく計画です。

ここで言う公設民営とは、保育園(幼稚園)の用地、建物、備品などは豊田市所有のまま、それらのものを法人に無償貸与して園を運営してもらおうとするものです。なぜ、市は公設民営化を進めたいのかというと休日保育や夜間保育などの新たなニーズに経費を抑え、対応するためには民間活力導入が必要だからと言っています。

私自身は幼稚園、保育園の公設民営化には必ずしも反対ではありません。現在、豊田市内では市立幼稚園が20園、市立保育園が43園(うち2園休園中)ありますが、保育の質が低下せず、保育料(授業料)も維持できるのであれば半分は民営化してもいいと思っています。しかし、清掃業務や給食センター業務もそうですが、ストライキ等を考えた場合、全面委託には非常に不安が残ります。また、民営化した場合、なぜ経費が安くなるかということも考えなければなりません。これは、人件費の公民格差が大きいのです。保育職員の給与が高いということだけではなく、民間保育士の給与が抑えられているという現実もあるのです。給与が上昇する時期になると退職せざるを得ず、人件費は抑制できるものの保育のプロというべき人材を必然的に退職に追い込むというシステムにもつながるのです。また、今まで市が負担していた保育園費より民間への管理委託費は減るかもしれませんが、それら補助金の使途の透明性には疑問が残るといわれています。私は、こうした功罪を総合的に判断するとともに園児にとって何が最善かを考え幼稚園、保育園の公設民営化を進めていかなければならないと思っています。



●公設民営化予定のみずほ保育園

②新清掃工場建設問題について

平成13年12月18日、豊田市都市計画ごみ処理場原案に対して建設規模、位置、時期及び処理方式の再考を求める意見書を提出しました。

1.) 建設位置について

建設予定地は現清掃工場に隣接する位置であり、学校、住宅地、病院等もないとして妥当という結論付けをしているが、明らかに建設位置選定は「ありき」で進められてきた。他に最良の場所がなかったのかという比較検討さえ見られない。また、豊田市の年間風向の最も多い、北北西からの風を考慮した場合、岡崎市北部への配慮、理解活動があまりに少なかったのではないかと。

2.) 建設時期について

現在の渡刈清掃工場、藤岡プラントの老朽化を理由に平成19年度稼働を目標に計画されているが、容器包装リサイクル法に伴うプラスチック製品、容器の徹底分別や生ごみの分別回収等を市民の理解の上で早急に進めればまだまだ渡刈清掃工場には、余力があり、建設時期についてはもう数年は十分延期できる。

3.) 炉型式について

施設更新にあたり炉型式を全連続燃焼式(熱分解式ガス化溶解方式)としているが、次世代型のこのタイプには今なお安全性、安定性、コスト面で不透明な部分が多い。

- ①全国的にも100トン以上の炉の稼働実績が少なく長期間使用の安全性に疑問が残る。
- ②新型炉のためメーカー派遣職員に頼らざるを得ない部分が多く、負担増の可能性やストーカ炉と比較し、耐用年数に疑問がある。
- ③排出されたスラグの安全性と使用の目的の不確実さ。

4.) 建設規模・区域について

現状の清掃工場の敷地面積:20,326㎡、工場棟面積:5,463㎡が新清掃工場建設により敷地面積:約39,300㎡、工場棟面積:7,500㎡と敷地面積で2倍、工場棟面積で1.5倍となる。これらは、平成25年度の予測人口368,200人から算出された施設規模:日量405tを基にしており、前述の通り、市民理解、市民参画のうえで1人あたりのごみ排出量削減を徹底的に推進すれば、施設規模の縮小は可能と考える。

③体験型交通安全教育施設整備構想について



●平芝町にある現在の交通公園

H13年9月19日、全議員に対して市が(財)豊田都市交通研究所に作成委託し、策定された(仮)交通安全教育施設整備構想策定調査報告書に基づく説明があり、私を含め6名の議員から懸念を示しつつ質問がありました。また、12月定例会においても2人の議員から一般質問のテーマとして取り上げられました。

整備構想では、幼児から高齢者までの体験型の交通安全教育施設として位置付けられ、規模は5~10ha、整備費は約50~100億円、公設第3セクター運営を想定しております。

そして、主な質問(争点)を要約すると次のようになります。

- 1.) 市がすべての実施主体になる必要があるのか[市、県、国、民間の役割分担は]
- 2.) 事業スケジュールと市民公表の時期は
- 3.) 事故防止のためが主目的であり建設ありきではないはず、構想は白紙から議論すべきでは
- 4.) ランニングコストは 等々

部長、市長からの答弁を総括すると完成時期、スケジュールも含め全くの白紙で市が何を主体として進めるかは全く議論しておらず、行政経営会議でも議論は全くしていないとのこと。議会答弁でも事業主体やスケジュールは明確にされないままでした。全員協議会での「手狭になった交通公園は市で建設すべきであるが、体験型の部分は民間の採算ベースで実施できるのではないかと」の市長答弁は我々の考えとまったく同じです。例えば全国に8ヶ所の交通安全教育センターを持つHondaは、年間約3万5千人の利用があるそうです。それらは、最新の設備をもつ常設コースで、熟練した専任のインストラクターが指導にあたり、危険を安全に体験する参加体験型の教育が特徴で、まさに豊田市の整備構想そのものです。Hondaは、全国に8ヶ所も整備したが、豊田市では同様の施設を市税で作成、運営は3セクに任せるとはいかがなものでしょうか。

私は体験型交通安全教育施設の事業主体を次のように考えます。

- 1.) 幼児、小学校低学年向けの交通安全教育施設としての交通公園は、手狭になり現況とはミスマッチになりつつあるので施設のリニューアルは市が責任を持ち公設公営ですべき。
- 2.) 交通事故多発世代の青年・高齢者向けの体験型施設は、免許証の更新時や企業内教育の一環として半強制的に受講させることのできない市としてはトヨタ自動車等の民間に整備段階から完全民営でお願いする。
- 3.) 施設全体の用地確保については全面的に市がかかわり、市民合意を得て市が提供(無償貸与)する。

放課後児童クラブ全校設置に大きな前進

●9月定例会での放課後児童健全育成事業についての私の一般質問で「余裕教室にこだわることなく、プレハブ等の専用施設、他の施設利用を検討すべきでは」との質問に前向きな答弁はいただけなかったものの12月定例会での太田議員の同様の質問において杉山社会部長は「学校の敷地内に余裕がある場合はプレハブ等の利用も考える」という答弁があった。9月の時点で答弁いただけなかったことは残念だが、こうして1つずつ検討し、市民ニーズに対応する市当局の姿勢は評価できると思う。



●枚方市の児童クラブ専用室

答弁の不思議？ 小学校はダメで幼稚園、保育園はOK???

●9月定例会で質問された加茂議員は小学校の校庭の芝生化を提案、質問された。しかし、答弁では前向きな答えはなかった。しかしである。12月定例会で中村ひろかず議員の「幼稚園、保育園に芝生化を提案する」質問には、「来年度、地域の協力を前提に園庭の芝生化実現に向け調査研究する」との答弁。私には小学校はダメで幼稚園、保育園はいいという考えがわからない。私も加茂議員同様是非、小学校の校庭の芝生化実現を願うもの1人として???

豊田地域医療センター職員の診療費自己負担分免除問題について

経緯

平成13年10月17日、岡田耕一は、篠田忠信議員とともに豊田地域医療センター職員の診療費自己負担分免除問題の早期改善等を要求する「緊急改善申し入れ」を行う。同年10月19日、外山雅崇議員により、職員の診療費自己負担免除分等の返還を求める住民監査請求を提出。同年11月12日、岡田、篠田両議員に対して宇井総務部長、栗山福祉保健部長から回答がある。現状認識、法的な部分での当局の回答は決して非は認めない内容であったが、理事会に諮るといことで結果としては改善に向け一歩前進。同年12月18日、市監査委員は「診療費の免除自体には違法性はない」という監査結果報告書を作成。

同年12月19日午後2時より医療センター会議室において、財団法人豊田地域医療センター理事会(理事10名、監事2名全員出席)を開催。

- 1.理事会では、議案審議終了後、「医療センター職員の診療費免除制度」について問題提起がなされ、今後の対応等について協議。
- 2.現行の医療費一部負担金免除制度は、直ちに廃止し、これまでの取扱いへの対応については、今後、速やかに検討する。

こうして、我々が、問題提起して約2ヶ月、鈴木公平市長(医療センター理事長)のリーダーシップのもと改革への道しるべが徐々に現れてきたように感じます。市政の抵抗勢力に負けず、これからも市民本位の市政運営を期待しております。私も是々非々で頑張ります。えっ？ 私が抵抗勢力??
いいえ、私は良識改革派です(笑)!



漫画「加治隆介の議」
テレビドラマ化を実現する議員の会について

「政治家は皆悪人だ」「何を言っても信用できない」「誰がやっても同じだ」と報じられるので、自然と政治に背を向けてしまうという一般の方の声をよく耳にする。政治家がある種の権力を持つ以上、批判の対象となることはやむを得ないことで、むしろ健全なことだが、批判一辺倒あるいは必要以上の揶揄が、政治的な無関心を呼び、肝心な問題が伝えられないとしたら、非常に残念なことである。弘兼憲史さんの漫画「加治隆介の議」では、なかなか主人公になり得なかった国会議員をヒーローと呼ぶにふさわしい国会議員として描かれている。架空の政治家・加治隆介は強い信念で理想を貫き通している。主張の賛否はともかくその姿勢は、国会と市議会では立場は違うが、たいへん共感が持てる。

そこで、「加治隆介の議」のドラマ化を実現し、より多くの方々にも政治に目を向けてもらえるよう私も所属している全国若手市議の会の有志でもポスター掲出活動を続けている。そこでご自宅、店舗等でポスターを掲出していただけるとお見えになりましたらぜひご連絡ください。



お 願 い

おかだ耕一後援会会報は美里地区周辺の方にはポストイン、それ以外の会員名簿に掲載された方には郵送でお届けしています。しかし、最近、ご転居等に伴い、転居先不明でお届けできない方が毎回、相当数出ています。現在、転送されておられる方、今後、転居を予定されておられる方、ぜひ、ご転居先をお知らせください。市外でもご迷惑でなければ郵送させていただきますのでよろしくお願いいたします。

月刊「おかだ耕一」創刊予定

月刊「おかだ耕一」は、HPに記載した内容や旬の情報(月刊では旬ではないという声もあるかもしれませんが)をより早く皆さんにお届け出来るように街頭での配布やFAXでの通信を考えております。定期購読をご希望されます方は、住所、氏名、FAX番号をお知らせください。もちろん購読は無料です。また、市外の方でも結構です。

おかだ耕一後援会へ力をお貸しください。

- ホームページ作成 会報編集(原稿作成、レイアウト編集、校正)
- 会報郵送準備(封筒へ宛名貼り付け、会報折り込み)
- 会報手配り(50~500部程度の各戸配布)
- 会の運営(企画、立案)

市政に関する様々な疑問、質問、要望等お気軽にご相談ください。

連絡先

TEL・FAX/88-9194(岡田自宅)
(こーいち)
<http://www.ko1.org/>
E-mail: okada@ko1.org

100%古紙再生紙を使用しています。 R100